

KGA

'02夏季号
2002年8月1日発行



NO. 79

目次

ゴルファーのためのマナー基礎講座(13)	
暴徒はひとりでは狂わない1	
—ギャラリーの観戦マナー—	
平成14年度 関東女子ゴルフ選手権決勝競技	3
平成14年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技	7
平成14年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技	11

平成14年度 関東倶楽部対抗決勝競技	16
ゴルフ場固定資産税軽減への道	26
分科委員会	28
月例競技成績表・お知らせ	32

表紙Photo 関東女子ゴルフ選手権決勝競技・小金井カントリー倶楽部(撮影:伊雲一義/KGA広報委員会副委員長)

 関東ゴルフ連盟

ゴルファーのためのマナー基礎講座

13

ゴルファーのためのマナー基礎講座

暴徒はひとりでは狂わない

—ギャラリーの観戦マナー—

文・杉山通敬(KGA広報委員)

カット・山縣和彦

USGAの機関誌『ゴルフジャーナル』の1996年10月号の表紙は、タイガー・ウッズ(当時20歳)の派手なガッツポーズの写真である。この年の全米アマの決勝マッチで19歳のフロリダ大学生、スティーブ・スコットと熱戦を演じたものである。

タイガーにとって全米アマ3連勝をかけた一戦だった。36ホールのマッチプレーの前半で5ダウンを喫したのだが、後半戦に入って猛チャージで追い込み、35ホールを終った時にはマッチ・イーブンになっていた。このホールで信じられないようなロングパットを入れ、ついに追いついたのだ。

表紙の写真は、そのロングパットを決めた瞬間のもので、まるで格闘技の選手がリング上で相手をたたきのめた時にやるような激情的なパフォーマンスである。同誌の1997年1月号には、その表紙に関する読者からの投書が13通も掲載された。いずれも批判的なものばかりであるが、代表的な

意見を紹介してみる。

〈10月号の表紙は私を少なからず困惑させた。私はあの日、息子に全米アマのテレビ中継を見させていたのですが、「ママ、見て!」と子供じみた声を張り上げながら、ウッズがおよそゴルフコースでやるには似つかわしくない、風変りな格好をみせていたのです。私が息子にゴルフ中継を見物させておいたのは、ゴルフはジェントルマンのゲームであり、大人らしい振る舞いをプレイヤーに期待したからで、子供をいたずらにエキサイトさせるようなことはゴルファーに限っていないと思ったからです。

ゴルフコースでのプレイヤーの振る舞いを見物させ、抑制のきいた市民的態度を学ばせ、プロファットボールのような子供には不向きなゲームに関心を持たせたくなかったのです〉

また、次のような投書もあった。

〈彼がこんなアクションをする以前は、私も彼に魅力を感じていたが、これはいったい誰なのだ。非市民的戦士かね。プロアマを問わず、この姿はゴルファーを善導しない。この表紙に関する限り、USGAの言い訳は無用である〉

13通の投書のほとんどが、タイガーの派手なガッツポーズと、その写真をわざわざ表紙にしたUSGAに対する非難なのだが、対岸の火事風にながめると、USGAはそのような投書が寄せられることはあらかじめ予測していたのかもしれない。いつの頃からか、ガッツポーズをするのが当たり前のように、その風潮をUSGAもにがにがしく思っていたのである。

それで、悪い火種は早いうちに消しておくに限ると判断し、この機会に警鐘を鳴らすべく、非難を覺悟の上であえて「ガッツポーズ」を表紙にし



たのではあるまいか。

しかし、USGAの思惑は外れた。いや、タイガをはじめ、選手の方は随分と「抑制のきいた市民的態度」でプレーを進めるようになってきたのに、ギャラリーの方が「ゴルフコースでやるには似つかわしくない」大騒ぎをするシーンが目立つのだ。今年の全米オープンの「大騒ぎ」など、これがゴルフの試合会場か、と耳をふさぎたくなるような喧騒であった。

お目当ての選手がショットするたびに「ゲット・イン・ザ・ホール！」などと、ボールの行方など確めもせずに“爆声”を張り上げるのだから、かえってプレーを妨害するのではないかと気が気でなかった。サッカーのフーリガンとそう変わりない。下手をすると暴徒化しないかと心配するくらいだった。

少しばかり古い話だが、1925年の全英オープンでマクドナルド（マック）・スミスが「晶臘の引き倒し」で勝てる試合を負けたことがある。

マックはアメリカに帰化していたが、生れはスコットランドだったので、ファンは彼に「郷土で錦」を飾らせたい一心で応援した。その期待に応え第3ラウンドを終って2位に5打差をつけてトップに立ち、最終ラウンドを迎えた。ギャラリーはマックに群がり応援する。そのため満足にクラブが振れないほどの状態になり、アウト42、イン40。5打差を1打逆転されてしまったのだ。そして、試合後こう語った。

「私はこんなにひどい目に遭ったのは初めてだ。彼らは見物人でなく暴徒だ。なぜなら、私は彼らの妨害さえなければ前の3ラウンドで一度もたたいたことのない78でプレーしても勝てたのに、いや79でも勝てたのに負けたのである。私は2度とスコットランドで行われる全英オープンには出場しない」

まさに晶臘の引き倒しに遭ったのだ。いくら好意的な動機で応援しようと、プレーヤーに対する配慮や思いやりを欠けば、ありがた迷惑になるばかりか、勝てる試合まで失なってしまうという好例である。



ボビー・ジョーンズは『マスターズ観戦の手続き』で書いている。

「ゴルフではエチケットとマナーが、プレーを統制するルールと同じように重要です。プレーヤーの好プレーに観客がそれ相応の喝采を送ることは当然の行為だが、行き過ぎた振る舞いは妥当だとはいえない。ゴルフを愛する人々を最も悩まることは、ミスや不運に対する喝采や揶揄です。このような事態はマスターズではめったに起らぬが、わがバトロンが“ゴルフ通”であり、思いやりのある観客であるという世界の評価を保ち続けるためにも、この種の行ないの絶滅を期さなければなりません」

しかし、そのマスターズでさえ、ジョーンズの危惧をよそに、近年は「思いやり」のない観客が増えているのは、なぜなのだろうか。

暴徒はひとりでは狂わない。彼らは群れをなして狂うからコワイのである。ジョーンズの言うように「好プレーに観客がそれ相応の喝采を送ること」は当然であるが、それ相応の見極めの出来ない観客がいて、彼らが多数を煽動するために群れをなして狂うのである。

対岸の火事が日本に飛び火しないことを願うばかりである。

平成14年度 関東女子ゴルフ選手権決勝競技

- 開催日 平成14年5月20日(月)、21日(火)
- 開催コース 小金井カントリー倶楽部 6,188ヤード パー73

幼虫から蝶に変身

文・森口静彦 (KGA広報委員)
写真・伊室一義 (KGA広報委員会副委員長)



関東女子ゴルフ選手権は、今年、第48回目を迎えた。関西女子ゴルフ選手権より一年後の昭和30年（1955年）に創設され、JGA主催の日本女子アマ（本年：第44回）、日本女子オープン（同：第35回）等数ある女子競技の中でも最も古い歴史を誇る競技の一つである。我が国女子ゴルフ史を華やかに彩った名選手が次々に登場し、やがて若手の台頭と共に表舞台から去って行った歴史が、銀製の大皿には刻まれている。

小金井CCでの開催は昭和42年（1967年）以来35年ぶりのことである。この間に於ける女子ゴルフの進歩、発展の過程を知る上でも、本年度の競技の成行きには極めて強い興味と関心があつた。

35年ぶりの小金井……第13回大会の概要について

先ず、昭和42年度（1967年）第13回大会について簡単に紹介する。

予選参加者73名のうち31名が決勝に進出、18ホール、6,360ヤード、パー74の小金井で27ホールの競技を2日間にわたって実施した。バスケットの全日本総合女子選手権、全日本実業団女子選手



今年のチャンピオンは鈴木麻美さん

鈴木麻美選手逆転優勝

今年度の予選参加総数は247名、決勝に残った131名が、去る5月20、21の2日間、銀の大皿を目指して競いあった。

1日目、スタート直後に降り出した雨は間もなく止んで、初夏の太陽のもと、各地から集まった女子ゴルファーが熱い戦いを展開した。昭和12年(1937年)、ウォルター・ヘーゲンの設計により完成したチャンピオン・コース。グリーンはやや小さめではあるが、バンカーに囲まれた砲台型である。フェアーウェイも自然の地形のままに緩やかなうねりを見せており、安易な攻略は成功しない。じっくりかつ冷静なコース・マネジメントを要求される。初日の結果は、下川めぐみが74をマークしてトップ、続く26名が4打差の中で下川を追うかたちとなった。また、当日のサプライズは8番345ヤードPar4(小坂順子)、11番415ヤードPar5(田村潤子)及び18番490ヤードPar5(三塚優子)で三つ子のイーグルが誕生したことだ。

68ストロークは2回目、5アンダーは新記録

2日目、良く晴れて絶好のゴルフ日和、時折、さわやかなそよ風も通り過ぎ、誠にのどかなお天気となったが、優勝の行方はこんどんとして予想もつかない。「こうなったら、最終組から7組目までのだれが優勝してもおかしくないよ」との下馬



練習グリーンには彩りも鮮やかな服装の選手たち

若鹿を思わせるしなやかなフォーム

評だった。最終組から4番目のパーティに同伴していた競技委員から「この組の鈴木麻美が現在6アンダー」という情報を得て、15番から鈴木ウォッティングを開始(15番は本日の初ボギー)。上り3ホールはいずれも難易度が極めて高い。16番パー。17番198ヤード、鈴木はグリーン手前からのアプローチをピッタリと寄せてパー。最終ホール490ヤードも左ドッグレッグのタフなPar5。右から攻めるのがベスト・ルートだ。鈴木のティーショットは230ヤード近辺のフェアウェイや左目、左ドッグレッグのコーナーが気になる。残り260ヤードを目一杯打ちたい気持ちをおさえ、無理せず、5アイアンでフェアウェイほぼ中央、グリーンを狙いやすい安全地帯に運んだ。そこから3オン、2パットのパー。第2打に5アイアンを選んだ鈴木の手堅い戦略がこのコース攻略の理に適ったと言えよう。結局、鈴木麻美はアウト32、イン36計68、-5で上り、通算145ストローク1アンダー。前日のトップの下川めぐみを3ストローク離して栄冠に輝いた。

残念だった一部選手の言動

競技終了後、4時すぎからハウス食堂で表彰式。新井競技委員長より成績発表の後、初日、一部選手の言動が俱楽部側に迷惑をかけたが、メンバー制俱楽部の利用にあたっては自ずから守るべき礼儀、慣習があることに留意するようにとの厳重注



色とりどりのファッション カラーでないのが残念



スコアボード前には応援のギャラリー

意があった。

ついで、開催俱楽部代表の杉山常務理事より、「過去にも5回開催したが、35年ぶりにこの長い伝統と誉れ高い関東女子を開催いただき感謝申し上げる」とご挨拶をいただいた。

福田KGA理事長は、コース整備に尽力し、競技運営に協力された俱楽部側に深謝すると共に参加選手に対してはエチケット、マナー、ルール等に対する理解を深めてもらいたいと要望があった。

鈴木選手に「優勝の感想を聞かせて下さい」とインタビュー。「うれしいの一言です」と実感のこもった一言。練習は毎日、300発程度。コース戦略については、練習場のプロから「ピンを狙わず、手前から攻めろ」と指導を受け、「奥につけないように心掛けた」由。

また、2日間、競技を観戦された小金井CCの雨宮競技委員長に感想をお聞きしたが、「女子には良い先輩がいて指導するから、プレーがキビキビしていて優秀がよい。バンカーショット等技術面の進歩も素晴らしい。今日の68というスコアは立派なものだ。これから先が楽しみ」とのことだった。

目ざましい競技力の向上

第13回大会のさらに6年前、小金井CCで開催された関東女子を観戦した細川護貞KGA常務理事(現JGA名誉会長)は「女子のゴルフは、まだまだスポーツ以前という感じである」と冷徹な眼で

感想を述べておられる。第13回大会の優勝者のスコアは24オーバー、今大会予選の85位(18H×2ペースに換算して対比)と同じである。今では優勝どころか予選通過もできない。一方、今大会優勝者のスコア145は1アンダーだ。そして優勝は70台前半のスコアで争われる時代に入った。

第13回大会決勝出場者全員の平均スコアは48オーバー(27H×2)、一方、今大会の決勝出場者全員の平均スコアは21オーバー(18H×2)。全体としてのレベルが段違いに向上了した事は一目瞭然だ。2日目単独ではあるが、68、ストロークは9年度大会の小林英恵とタイ記録だ。いよいよ関東女子も70の壁を次々に突破する選手の台頭が期待され、新しいページが開かれつつあるとの予感を覚える。また一度に3個のイーグルが出る等、スポーツとしての高い水準の話題にも恵まれた大会であった。幼虫時代のゴルフを脱し、蝶となって華麗なスポーツの世界で飛び始めたのだ。その意味で本年度の関東女子は実に画期的な大会であった。



いつもながらの華やかな表彰式

平成14年度 関東女子ゴルフ選手権決勝競技成績表

エントリー138名/出場者136名/欠場者2名

順位	選手名	所属	重1ラウンド	重2ラウンド	合計
1	鈴木 美	カレドニアン	77	68	145
2	下川めぐみ	ファイブエイト	74	74	148
3	原 かおり	鳥山城	76	73	149
4	豊島裕美子	千葉	77	73	150
5	青木 敬子	関東ジュニア	75	75	150
6	南雲 真理	岡部チサン	76	75	151
7	渡辺 恵子	高根	77	74	151
8	鈴木章古	東京清スプリングス	75	76	151
9	関根奈穂美	セントラル	75	76	151
10	浅川 弘子	矢板	76	76	152
11	綿田万里子	長野	79	73	152
12	市川慶子	江戸崎	75	77	152
13	中島佳奈子	甲斐	78	74	152
14	三塚 優子	水都	76	77	153
15	全 沙織	都賀	79	75	154
16	高橋有希子	浜野	81	73	154
17	佐々木洋子	妙高	76	78	154
18	青木 英子	千葉	78	77	155
19	小山利恵子	関東ジュニア	79	76	155
20	竹田百合恵	グリーンバレー	76	79	155
21	中村 美英	法政	80	75	155
22	長瀬 万寿	東京	77	79	156
23	土井 純子	島山城	82	74	156
24	市野由起子	里美	76	80	156
25	矢島智郎子	霞ヶケ間	78	78	156
26	高橋雅香都	小田原	78	78	156
27	杉山 加奈	東京都	76	80	156
28	林 佳世子	ロイヤルスター	75	82	157
29	大堀 貴子	霞ヶ浦	81	76	157
30	佐藤 里菜	関東ジュニア	79	78	157
31	霞木 直子	東名厚木	78	79	157
32	桜井 裕華	湯田上	77	80	157
33	五十嵐洋子	藤田同	78	80	158
34	飯塚 千重	水戸グリーン	78	80	158
35	福田 淳子	セントヒルズ	83	76	159
36	野本 恭子	霞ヶ浦	80	79	159
37	橋 進子	船	80	79	159
38	山本美恵子	新千葉	87	73	160
39	望月 和	大平台	79	81	160

以上日本女子アマチュアゴルフ選手権出場有資格選手

38	小林亜矢子	京	81	79	160
39	岡橋 早里	オーク・ヒルズ	81	79	160
40	栗原美佐枝	小田原・松田	79	81	160
41	落合 麻紀	小田原	83	78	161
42	新井明日香	塙	81	80	161
43	平田 悅子	カレドニアン	80	81	161
44	松本京子	鳴山	84	77	161
45	牛込 成美	下野	81	80	161
46	鈴木ゆり子	富士御殿場	82	79	161
47	小坂 順子	千葉	80	81	161
48	今野 香織	サザンクロス	83	79	162
49	水嶋亜沙由	富士箱根	82	80	162
50	村崎優美子	甲斐美春	81	81	162
51	下山 由香	青森連	81	81	162
52	利根川雅美	日本体育大	82	80	162
53	三川 潤香	鳥山城	81	81	162
54	田村 潤子	十日町	79	83	162
55	杉浦ちえみ	寄居	85	78	163
56	八木美智代	ミオス菊川	80	83	163
57	津島さやか	霞ヶ浦	83	81	164
58	田谷 千秋	チェックマイド	81	83	164
59	尾関 久江	武蔵	85	79	164
60	間下 美喜	東名厚木	82	82	164
61	吉田けい子	武	84	80	164
62	近藤 信子	富士箱根	82	83	165
63	片野 由布	プリンスラン	83	82	165
64	古川 美知子	東千葉	83	83	166
65	小川 美佳	御殿場	86	80	166
66	飯沼 恵子	日光	81	85	166

予選競技メダリスト選手

第1ブロック 飯塚 千重(水戸グリーン) 72ストローク
第2ブロック 鈴木 麻美(カレドニアン) 76ストローク

特別表彰

(20回出場表彰) 近藤 信子(富士箱根)
(15回出場表彰) 五十嵐洋子(藤岡)
(10回出場表彰) 杉浦ちえみ(寄居)/大徳 照子(新千葉)

平成14年度 関東グランドシニアゴルフ選手権決勝競技

●開催日 平成14年6月3日(月)

●開催コース 程ヶ谷カントリー倶楽部 6,106ヤード パー72

雷雨で中止、悲喜こもごもの再試合

文・山田和臣、塩田正(KGA広報委員) 写真・舟橋一芳(KGA広報委員)

本年度のグランドシニア選手権開催コース程ヶ谷カントリー倶楽部は大正11年2月24日(1922年)横浜市常盤台附近に創設され、昭和42年12月10日(1967年)に現在地に移転し満80年を迎える名門コースである。

幻の一日、強者も雷様には勝てない

開催日5月27日(月)は早朝から空模様があやしかった。8時過ぎには一軒雷雨となり8時40分競技中断し、9時20分より再開した。午後2時15分再び雷雨となり、競技委員会は、中止を決定した。40名ほどの選手がホールアウトした。その中では



今年のチャンピオンは菅野義徳さん



5月27日午後3時中止を決定し発表



吉田光守氏が(嵐山)74ストロークで首位に立っていた。このスコアは、優勝そしてエージェント間違なしと誰も思っていたが、残念ながら幻に終った。

関東ゴルフ連盟決勝競技が中止になったのは長い歴史の中でも初めての事であろう。強者揃いの選手諸氏も雷様には勝てなかった。

この結果6月3日に再試合となる。

気分一新

再試合となった6月3日は早朝より湿度は高いものの、ときたま冷風の吹く晴天にめぐまれた。5月27日に、欠場、NRした人も復権が認められ、



全選手に再度開催通知を送付したが参加者数125名、欠席者は15名であった。最年長プレーヤー山口栄寿氏（唐沢）84歳の姿がなかったのは寂しい。グランドシニアとは云え、元気に溢れ、皆コースに挑戦して行く。コースの仕上げは上々で、ラフ100mm、セミラフ50mm、グリーン3.3mmのシングルカット、再度の挑戦が始まった。参加者の中に、連盟月例競技委員長、松本富夫氏（相模）がおられるので、初年兵の感想を伺った。

「このコースはアップダウンがあるため、ブレイングディスタンスが長い。しかし、皆さんのプレーは、スピード感に溢れ、競技者のお手本である。ボールマーク直しもきちんと行き、目土も自分で行なっていた。歳を追うほどマナーが良くなるのかなあ？ 競技委員の方々の目配り気配り十分の運営ぶりに感心しました」

● 二人のエージシューター

山口梅吉氏（横浜・1920年9月3日生）と木元栄次氏（鷹之台・1924年10月29日生）がエージシュートを達成した。山口さんの身体には手榴弾が入

っている。そのハンディを背負いながらの快挙だ。皆さんが早朝よりドライビングレンジで練習しているのに何もせずバターを手に練習グリーンで三打転がしたきりだ。そして今日は83のエージシュート狙いだと、気軽にスタート。エージシュートも何回達成したか忘れたとか。今日はパッティングの調子が悪く3パット6回もしたことが悔まれると語る。

スコアは82ストローク。来年の我孫子でも狙うことである。

もう一方の木元栄次さんは好調なパットに助けられたとのこと。

「エージシュートは公式競技で6回目になりますが、とりわけ今回は関東グランドシニア選手権と云う大舞台で達成出来た事に大きな喜びを感じて居ります。私は今年の10月に満78歳になります。この日の78（38.40）は上出来と思って居りますが、それでも17番で3パット、18番では3打目を右に逸らせて、何れもボギーにしてしまった事は大変残念に思って居ります。今日はドライバーでフェアウェイを外したのは5回とまあまあでしたが、

パットが17番を除いては、全部2パット以内で収める事が出来たのが、エージシュート達成の大きな要因と思って居ります。これからもパットに自信を深め80歳過ぎ迄、一試合、一試合にエージシュートを目指したいと思って居ります」ドライバー1振りすれば230-260ヤードの飛ばしの達人でもあった。

さて本年度のチャンピオンは初出場菅野袈裟徳氏（松本）であったが、優勝インタビューで、次のように語った。

「前日の6月2日に松本カントリー倶楽部のシニア選手権の予選競技に出場し、今朝3時（甥御さんの運転）に松本を出発し、5時30分頃到着しました。所属倶楽部のプロより井の中の蛙では駄目ですよ。公式競技で力を試してみてはとの話がありましたので、出場を決心し昨年11月頃より歩行時に足に鍼2kg（片足）、腕に500g～1kgを付け鍛錬し、握力が50ほどになり、体力に自信を持つことができました。私は縁起をかついでおりまして“死んだ氣でやれ、思い切ってやれ”との思いでボールは4にこだわってます。ところが4番ホール（330ヤード）でダブルボギーをたたきました。同伴競技者の野本、西浦、山崎氏の声援を受け、73ストロークで上ることができました。十二分に競技を堪能させていただき、本当に幸せです」と努力の人柄をしのばせながら淡々と語られた。ちなみにドライバーの飛距離は平均220-230ヤード。5番アイアンは170-180ヤードと若者に負けない体力ある信州男子である。



二人のエージシューター山口梅吉さん（上）と木元栄次さん

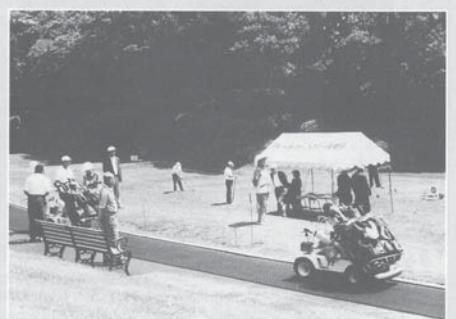


表彰式の挨拶で関東ゴルフ連盟理事長、福田彰氏より「昨年から予選競技が必要となる程、グランドシニア層に厚さが増し、年々成績も上昇し、大変嬉しい極みです。快晴に恵まれ、運営に寄与してくれた程ヶ谷カントリー倶楽部の皆様、競技委員会の皆様に心より感謝すると同時に、今後のゴルフ活動の方向づけを人生の大先輩である皆様の力では是非お願い致します」と語られた。

最近生涯現役と云う言葉をよく耳にする。健気に留意いただきまた来年お会いしたいものだ。



スタート前のパッティング練習にも熱が入る



どの選手も気負うことなく済々とスタートを待つ

平成14年度 関東グランドシニアゴルフ選手権決勝競技成績表

エントリー125名/出場者110名/欠場15名

順位	氏名	俱楽部	アウト	イン	合計
1	菅野義徳	松本	38	35	73
2	永井重吉	横子	37	38	75
2	山崎 徳人	多摩	37	38	75
2	膳保 幸雄	富士士	37	38	75
2	塙田 正	立川国際	37	38	75
2	谷間 芳明	真名	34	41	75
7	大村 豊	富士箱根	39	37	76
7	岩井 二郎	霞ヶ閣	38	38	76
7	岡田 四郎	千葉	38	38	76
7	野本 俊夫	柏ヶ根	36	40	76
11	油水 敏雄	利行	40	37	77
11	安田 正行	東京	38	39	77
13	岸井 勇幸	廣之	40	38	78
13	小川 博道	多摩	39	39	78
13	大堀 達也	相模	39	39	78
13	矢島 昇	入間	39	39	78
13	木元 栄次	瀬之台	39	39	78
13	富田 純	嵐山	38	40	78
13	市川金次郎	美里	38	40	78
13	保田 宏	袖ヶ浦	37	41	78
21	武田 博	入間	43	36	79
21	長野 和郎	鎌倉	41	38	79
21	松本 富夫	相模	39	40	79
21	長島 篤明	立川国際	38	41	79
25	深澤 源一	廣済堂埼玉	42	38	80
25	齊藤 功康	霞ヶ閣	41	39	80
25	品田仁三郎	杉ノ郷	41	39	80

[以上日本グランドシニアゴルフ選手権競技出場有資格者]

25	平林 豊	武蔵	41	39	80
25	吉沢 友七	東京よみうり	40	40	80
25	富山 国定	伊豆にらやま	39	41	80
25	小谷野利三	飯能	39	41	80
25	高橋 一	嵐山	39	41	80
25	岡野 幸夫	日高	38	42	80
25	大野 秀夫	京葉	38	42	80
25	吉田 正治	嵐山	38	42	80
25	小伏野孝治	府中	38	42	80
25	大島 義治	岡部チサン	38	42	80
25	大矢 得光	津久井湖	38	42	80
39	中村 駿	武藏	42	39	81
39	西浦 誠己	伊豆下田	41	40	81
39	水谷 敏	桜ヶ丘	41	40	81
39	木村 良雄	我孫子	40	41	81
39	山田 輝志	鷹之台	40	41	81
39	安藤 龍男	京葉	40	41	81
39	水越 要	日光	39	42	81
39	堀内 良一	富士里	39	42	81
47	今井 昭一	中津川	41	41	82
47	牧野 政男	中中	41	41	82
47	満口 宏造	大相模	41	41	82
47	宮坂 昭治	本厚木	39	43	82
47	坂入 弘一	入間	39	43	82
47	鶴田 静雄	バイブルポイント	39	43	82
47	山口 梅吉	横浜	38	44	82
47	田中 满司	日高	38	44	82
55	土居 邦	藤ヶ谷	43	40	83
55	島本 郁男	武蔵	43	40	83
55	石川 一二	白鳳	42	41	83
55	杉山 發	都賀	42	41	83
55	吉村 忠之	千葉	42	41	83
55	丹羽富美雄	狹山	42	41	83
55	和田 貞武	桜ヶ丘	41	42	83
55	市来 達則	千葉国際	40	43	83

予選メダリスト

第1ブロック 杉山 春(都賀) 76ストローク
第2ブロック 宮坂 昭治(本厚木) 75ストローク
第3ブロック 菅野義徳(松本) 76ストローク

特別表彰(関東シニア(決勝)・関東ミッドシニア・関東グランドシニア出場)

《15回出場表彰》 小川 博道(多葉)
《10回出場表彰》 安藤 龍男(京葉)/大島 義治(岡部チサン)/大曾根謙次(千葉)
大矢 得光(津久井湖)/國本 保進(相模原)/中村茂八郎(東京)
深澤 源一(廣済堂埼玉)

*エージェント
山口 梅吉(横浜) 82ストローク/木元 栄次(鷹之台) 78ストローク

平成14年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技

●開催日 平成14年6月11日(火)~14日(金)

●開催コース 日光カンツリー倶楽部 7,061ヤード パー72

伝統の源と若き継承者を思う

文・杉山通敬(KGA広報委員) 写真・片山晴美、塚越克一(KGA広報委員)



関東アマチュアゴルフ選手権が創設されたのは1938(昭和13)年である。当時の『GOLFDOM』(同年12月号)に次のような記事が掲載されている。

「何しろ、初めての競技だけに多大の関心と興

味を以て注視されたが、参加者32名の中、10名という多数の棄権があり、折角の選手権(マッチプレー)そのものが、甚だ興味索然なものになってしまった感があったのは遺憾千万であった」

なぜそのような多数の棄権者があったのか、そ



2連覇を果した甲斐慎太郎選手



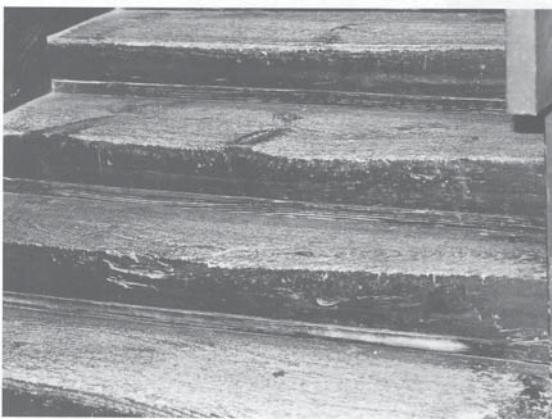
の理由は不明だが、すでに戦時下（昭和12年中華事変、13年国家総動員法成立）にあったから時流が棄権者のゴルフ心に水を差したのかもしれない。

以来、今年は58回目の大会である。6ブロックに分かれて予選会が行われ、その参加者総数は867名であった。予選をクリアして決勝競技に進出したのは158名（うち4名欠場）で最長年者は65歳の加部副男選手で、最若年者は決勝ラウンドに残った中では、16歳の池田勇太選手（高校2年）であった。戦時下で行われた第1回大会のことを思うとまさに、隔世の感がある。

開催コースの日光カンツリー倶楽部（7,061ヤード、パー72）は、この大会に先立ち距離を60ヤード伸ばし、新たにコースレートを査定した。その結果、72.8から73にレートアップされた。来年はここで日本オープンが行われることになっており、今大会の優勝スコアがどの程度になるか、ひとつの目安として興味が持たれた。

明るい兆候「プレーは迅速に」

前半の36ホールでトーナメントをリードしたのは21歳の日体大学生の甲斐慎太郎選手と19歳の日



年輪を思わせる日光CCの階段

大学生の北田隼士選手だった。142の2アンダーである。156ストロークまでの72名が後半の36ホールに進出した。第3ラウンドを終った時点でも2人のリーダーは変らず、通算スコアも2アンダーだった。

大会も残すところ、あと1日となった3日目の夜、競技委員の懇親会があり、同席させてもらった。その席上で新井安寿競技委員長がいかにも嬉しそうに言った。

「2時20分には全選手がホールアウトするようスタートの予定を組んだのですが、喜こばしいことに2時には全員がホールアウトした。何年も前からプレーの迅速化をスローガンにしていたのだけれど、今年はようやく選手が実行してくれたわけです。従来はともすると若手のプレーが遅かったのに、今年はスピーディです。連盟の指導が徹底してきたのではないかと思うと、実に嬉しいですね」

予定より20分も早く、全員がホールアウトできたのは第1組から最終組までが、間断なく流れに乗ってプレーを進めた、なによりの証しである。

最終日の最終組は2人のトーナメント・リーダーと最若年者の池田選手（通算1オーバー）で、

スタート表の時間は9時24分だった。アウトとインに分かれていたが、ともに第1組は8時である。7分間隔でアウトは13組、インは11組。

甲斐、北田、池田組がアウトをスタートしたのは9時35分であった。予定より10分ほど遅れていたが、13組でその程度なら許容内のアローワンスである。

観戦子が8時前に食事を済ませると、別のテーブルで阪田哲男選手と和田雅英選手がスタートを前にコーヒーを飲んでいた。観戦子も食後の一眼をしたいと思っていたので同席

させてもらった。その時の茶飲みばなしで阪田選手が言った。こちらが「近頃の若者はよく飛ばすね」と、話しの水を向けたのが発端だった。

「いえ、飛距離はぼくらのほうが出ますよ」

和田選手に同意を求めるように言ってからつづけた。阪田選手は6オーバーで最終日を迎えていた。

「それなのにスコアに差が出るのは、若い人はガムシャラなところがあるからでしょ。ラフに入ってしまって攻撃的にガンガンいくけど、ぼくらはどうしても安全にいく。パワーがなくなってきたから、ラフに入ると叩き切れないんです。若い人はガムシャラに思い切り打つ。それがプラスに作用した者が好スコアにつなげ、マイナスに作用したらまとまらない。そういう試合展開になっているんじゃないかな、最近の試合は」

ガムシャラが吉と出れば優勝争いに絡み、凶と出れば沈没する。それが若者のゴルフの特徴なのかもしれない。阪田選手は関東アマ6勝の最多記録を持っている。初優勝が1977年で、現時点での最後の優勝は93年である。だからこの間の17回で6勝、勝率は3割4分7厘になる。さまざまな勝ち方をしていただけに、彼の言うことには説得力がある。

身なりはシンプル

最終日は曇天微風、一時小雨もパラついたが傘を差すほどではなかった。最終組は甲斐選手がまずティショットした。右のラフに入る。次に北田選手がフェアウェイのセンターへ飛ばし、最後に打った池田選手はどこへ飛ばしたか、不覚にもメモを取りそこねた。少しばかり、別のこと気に取られていたからである。

3人の身なりが実にシンプルだったので書き留めながら、彼らに随伴したせいである。甲斐選手は白地に赤くて細い横縞のウェアに白のパンツ。



ベテラン阪田哲男選手は、第3ラウンド3番でホールインワン

北田選手はグレーのウェアに黒のパンツ。池田選手は白のウェアに白のパンツ。いずれも、シンプルで清楚感のある身仕度だった。

それが若者らしくて“いい感じ”なのである。身なりがシンプルだとスウィングまでシンプルに見える。

北田選手は1番（419ヤード、パー4）でバーディを取った。ピンは左奥に立っていた。セカンドショットで乗せた所はグリーンの右手前だったから、20メートルはあろうかというロングパットである。なのに、時間をかけて丹念にラインを読むでもなく、およそその見当をつけ無難作とさえ思えるような迅速さで入れたのである。見てるほうが呆気に取られたくらいだった。

入れたあと、誰に言うでもなく呟いた。

「3パット覚悟で打ったら入っちゃった」

甲斐、池田両選手はバーだった。北田選手は早々に甲斐選手に1打差をつけて単独首位に立った。2番（425ヤード、パー4）でも北田選手のティショットはフェアウェイのセンターを捉えた。甲斐選手はフェアウェイの左のやっかいなバンカーに入れた。北田選手はピン右上、6メートルほどに2オンした。甲斐選手は、やっかいなバンカーからグリーン手前60ヤードほどに脱出するのがやっとだった。

この分ではさらに1打、ことによると2打の差を



最年長（65歳）の加部嗣男選手

このホールでつけるかもしれない。しかし、結果は逆だった。甲斐選手が1パットのバーでしたのに對し、北田選手は6メートルから3パットのボギーにしたのだ。

「ゴルフの変数は無限である」

と言ったのはボビー・ジョーンズだけれど、20メートルの1パットと6メートルの3パットも、変数なのかもしれない。1番の1パットが2番の3パットの伏線になったように思えた。1の変数が3になってしまふのだから、ゴルフはママならない。

垂範となるプレー

アウトのスコアは甲斐34、北田36、池田34だった。通算では甲斐4アンダー、北田イーブンパー、池田1オーバーである。

3人が11番ティに立った時、12時の時報を告げるチャイムがどこかで鳴った。彼らが1番をスタートしたのは9時35分であったから、10ホールを2時間25分で消化したことになる。1ホール平均14分30秒である。前夜、新井競技委員長が言っていたことを思い出す。

「今年はプレーが迅速です」

その通りなのだ。だからといってプレーが雑なのではない。手順がいいのだ。先にホールアウトした者がピンを持ち、キャディは次のホールのティに待機して、準備する。誰かがラフに入れれば全員で搜す。だから進行が停滞しないのだ。見ていて実に爽やかで清々しい。21歳と19歳と16歳の若者が、若者らしい清涼感を漂わせ、屈託のないビハイビアでスピーディにプレーを進めていくのだ。

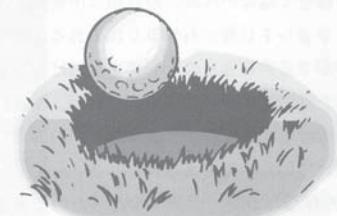
そして、3人の中の最年長者である甲斐選手が、昨年の優勝経験を生かして2連勝した。

「北田君の1番のパーティも2番のボギーも気になりませんでしたけど、ぼくにとって2番のバーがキーになったと思います」

試合後のパーティに先立ち、福田彰KGA理事長が挨拶した。

「皆さんのプレーはスピーディで非常に素晴らしい。どうぞ今後もこの調子で世のゴルファーのために垂範となるようなプレーをして下さい」

回を重ねて58回。その歴史と伝統が着実に若者達へ受け継がれつつあることを思い知らされた大会であった。だからと言って、若者以外は出る幕がないと言うわけではありません。若者をギャフンといわせるのも、ゴルフならではの「味」が出る。阪田さん、来年あたり7度目をどうですか。



平成14年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技

エントリー数158名／出場者数154名／欠場者4名

順位	選手名	所属	第1ラウンド	第2ラウンド	第3ラウンド	第4ラウンド	合計
1	甲斐慎太郎	日本体育大	69	73	72	70	284
2	池田 勇太	関東ジュニア	76	69	72	71	288
2	北田 良士	関東ジュニア	67	75	72	74	288
4	齊藤 麗	関東ジュニア	73	74	74	72	293
5	金澤健太郎	鹿 沼 7 2	72	72	73	77	294
6	川根 隆史	伊香保国際	77	74	70	74	295
6	坂田 哲男	袖ヶ浦	74	76	72	73	295
6	石井 保行	清 川	72	73	77	73	295
6	和田 雅英	東京五日市	72	72	75	76	295
6	藤田 大	草月・佐野	75	69	75	76	295
11	中島 徹	関東ジュニア	71	78	74	73	296
12	神戸 誠	大田 双葉	75	75	73	74	297
13	中川 雅義	沼 津	75	74	77	72	298
13	水上 畏男	鶴 舞	77	74	73	74	298
13	上島 英信	ニッソー	73	76	75	74	298
13	森谷 英道	小 横 梶	70	78	71	79	298
17	伊波 芳雄	專修 大	74	75	74	76	299
18	米澤 友一	日本体育大	73	77	79	71	300
18	重田 栄作	ダイワインテージ	74	76	76	74	300
18	染谷 健市	扶 桑	75	76	72	77	300
18	三橋 隆明	ザ・ファースト	77	76	73	74	300
18	梅澤 吉朗	群 馬	75	73	72	80	300
23	杉山 稔	總 武	72	81	76	73	302
24	鶴賀 辰徳	ロイヤルスター	76	73	79	75	303
24	和田 博	東京五日市	78	74	78	73	303
24	半田 稔一	ファイブドット	76	75	78	74	303
24	宮 辰夫	習 志 野	78	73	77	75	303
24	江澤 健夫	習 志 野	76	76	70	81	303
29	高安 信行	セントラル	78	72	76	78	304
30	高村 宏	ファイブドット	74	76	80	75	305
30	藤崎 和典	富士 竜 間	80	72	77	76	305
30	沢田 信弘	東京五日市	76	73	79	77	305
30	佐藤 達也	関東ジュニア	74	75	81	75	305
30	坂本 駿	日本体育大	73	77	79	76	305
35	木村 哲也	千 葉	76	78	79	73	306
35	小川 透	岡部チサン	78	78	73	77	306
35	宮本 清	小 川	78	76	76	76	306

順位	選手名	所属	第1ラウンド	第2ラウンド	第3ラウンド	第4ラウンド	合計
35	加部 嗣男	東 名	79	71	76	80	306
35	金子 光規	レインボー	77	75	78	76	306
35	野際 啓介	新 千 葉	76	75	78	77	306
41	山田 雄太	中央 大	76	76	81	74	307
41	服部 徳	セゴビア	76	75	78	78	307
41	日向 和弘	鬼怒 川	75	78	78	76	307
41	金 淳延	塙 原	79	73	76	79	307
41	磯岡 真吾	鳥 山 城	77	74	78	78	307

【以上日本アマチュアゴルフ選手権出場有資格者】							
46	中野 正義	霞ヶ浦出島	80	75	76	77	308
46	松本 富士 宮	75	75	79	79	308	
48	石井 幹	千葉スプリングス	78	75	80	76	309
48	亀井 隆	唐 沢	78	74	78	79	309
48	岡田 壮広	月見・佐野	78	72	79	80	309
51	渡部 富夫	ゴルフ・レイクス	80	75	79	76	310
51	後藤 寛治	東 宇都 宮	74	77	83	76	310
51	永井 英輔	沼 津	73	83	77	77	310
51	渋谷 重氏	新 千 葉	78	77	76	79	310
55	日暮 俊明	扶 桑	77	79	79	76	311
55	塙 延	カバヤ	80	76	77	78	311
55	原 雄雄	横 浜	78	72	84	77	311
58	冬 領 克宣	甲斐 美 審	74	78	82	78	312
59	佐藤 勇一郎	喜 連 川	79	76	79	79	313
60	鶴田 豊人	青 梅	74	78	85	77	314
60	高村 賢治	日本体育大	76	75	75	85	314
60	大和田康夫	草 津	76	80	75	83	314
60	村田 章悟	專 修 大	77	79	77	81	314
60	佐藤 尚	オリミック	74	77	75	88	314
65	伊東 嘉穂	京	78	77	78	82	315
65	水野 肇司	リバー富士	73	78	80	84	315
65	村田 三郎	セントラル	75	78	82	80	315
68	板垣 道也	伊香保国際	76	80	79	81	316
69	杉山 和正	大 利 横	80	76	82	79	317
70	内田 宏健	関 東 国 際	78	76	85	81	320
71	松下 定弘	セ・パレステロス	78	77	80	86	321
72	加藤 健康	鹿 沼 7 2	77	79	83	83	322

予選競技メダリスト選手

第1ブロック（東京よみうり）

岩波 雄（甲府国際） 71ストローク

第2ブロック（鴻 畠） 板垣 道也（伊香保国際） 69ストローク

第3ブロック（皆 川 城） 伊波 芳雄（専修大学） 73ストローク

第4ブロック（ザ・オーシャン） 村山 大（桜） 74ストローク

梁谷 健市（扶桑） *

村田 三郎（セントラル） *

第5ブロック（千葉スプリングス） 野際 啓介（新千葉） 70ストローク

第6ブロック（柏原・吉コース） 内田 孝（戸塚） 73ストローク

山本 秋夫（大厚木） *

特別表彰

決勝競技

(20回出場表彰) 原 繁雄（横浜）

(15回出場表彰) 金子 光規（レインボー）

中島 廣行（伊豆にらま）

(10回出場表彰) 石井 幹（千葉スプリングス）

亀井 隆（唐沢）

染谷 健市（扶桑）

平成14年度 関東倶楽部対抗決勝競技

●開催日 平成14年6月24日(月)

●開催コース 茨城ゴルフ倶楽部 Aクラス 西コース 6,504ヤード バー72
Bクラス 東コース 7,069ヤード バー72

**かく戦えり
初出場パークレイカントリークラブ・チーム**

—優勝はぶっちぎりで扶桑カントリークラブ—

文・塩田 正 (KGA広報委員)
写真・伊室一義、片山晴美、塚越克一、舟橋一芳 (KGA広報委員)

平成14年度関東倶楽部対抗決勝競技は、6月には珍しく、湿度50パーセントを割る絶好のコンディションのもと、茨城ゴルフ倶楽部で熱戦が展開された。結局、地元茨城第一地区代表の扶桑カントリー倶楽部が断然たる強味を発揮し、第2位の袖ヶ浦カントリー倶楽部を6ストローク離して2度目の優勝を遂げた。大会終了後、扶桑CCの入江義男キャプテンは「450を切ることなど考えられなかった。選手の日頃の努力の賜」と優勝をこう締めくくり、盛会のうちに幕を閉じた。



喜びの扶桑カントリー倶楽部の皆さん



第1打は選手も応援団も緊張



今やおそしと自軍の選手を待つ

「関東倶楽部対抗競技は、関東オープン選手権に代わる競技として育てていきたい。しかしそれにしても450を大きく削るスコアを出した扶桑CCの力にはびっくりしている」と福田彰関東ゴルフ連盟理事長が賞賛するように扶桑CCの強さが目立った大会だった。しかし、扶桑CCのほかにも第2位袖ヶ浦CC（千葉第1=448）。第3位東千葉CC（千葉第1=449）もこぞって450を割り、年とともに技術の向上が見え「関東オープンに代わる大会」にふさわしく力強い前途が見え始めてきている。

そしてさらに予選出場チームは昨年の315チームに対し、今年は324チームで、なんと9チームも増えている。底辺のさらなる拡大が大会の充実さを後押しているのだが、今回はそんな次代の実力チームの仲間入りを狙う初出場のパークレイカントリークラブ（栃木第1）に焦点を当て「我らかく変身せり」をテーマに初参加の心意気を語ってもらった。

コースの整備が選手を強くした

パークレイカントリークラブは、栃木第1の予選で、2位の袖ヶ浦カントリークラブを15ストロークも離して堂々優勝、6月24日の本選に駒を進めた。パークレイCCは、平成12年こそ4位と健闘し

たが、大体が半分より以下の順位でバッとした成績を残していない。今年のように2位にぶっちぎりで優勝という快挙の裏にはいったい何があったのだろうか。「倶楽部対抗のコースを引き受けたのがきっかけかも知れませんよ」

こういうのは同クラブの支配人富田一吉氏だ。昨年5月に栃木第1の予選会場に決まってから富田支配人はすでに会場を経験しているコースを訪ね、フェアウェイやラフ、バンカー、それに肝心のグリーンの状態をどう管理したらよいか尋ねまわって歩いた。そして、

「フェアウェイを狭くし、ラフを伸ばす基準を視察にきたKGAの競技委員から指示され一安心するかたわら、そのマニュアルに従って一生懸命管理に努めた。これを見て、選手たちもやる気を起したみたいですね」

と予選会場へ向けて整備のスタートを切ったころから選手のやる気に火をつけたのではないかと語る。

そして、それを裏付けるように同チームの山田秀房キャプテンも次のように言っている。

「実戦的な練習ができたのが大きかったと思いますよ。会場に決まる前は、ラフも短く、フェアウェイも広かったし、それにバンカーの砂もばんばんに固かった。それが栃木第1の会場に決まっ



駐車場は満杯 打ち放し練習場を解放



サインもれのないようにキャプテンが注意



上りホールでは自軍の選手を拍手で迎える



スコアボード前では一喜一憂

てからラフを伸ばし、フェアウェイを絞り、バンカーにも新しく砂を入れたんです。各ホールが見違えるように引き締まり、しかも難しくなりましたね。選手たちはそんな中で一生懸命練習しましたから強くなつて当たり前です」

と一挙に頂点に登りつめた理由はコース整備にあったと強調する。

また「自分のコースでやるからには勝たねば」という選手団、ひいては鍛成会（研修会）一同の意識も忘れられない。

その一人が本間洋一選手だ。

「たしかにプレッシャーはかかりました。知った顔ばかりで、みんなから頑張れの声がかかる。有難かったのですが、こうした声が知らず知らず

のうちにプレッシャーになる。しかし、オレは斬込み隊長、一番下手なオレがそこそこのスコアを出せば、みんなの士気もあがり、いい結果ができるんじゃないかな——そんな気持でやりました」

その本間選手、アウトを35で上がり、立派に斬込み隊長の役目を果たし、ぶっちぎり優勝への道を切り開いた。

そして、今年は選手の選出に当たって徹底したポイント制をとった。3月といえば、選手を選ぶ最後の鍛成会だったが、ここで前の月まで3位にいた選手が、4位の選手にポイントの上で逆転されてしまった。気の毒といえば気の毒なことだが、これは鍛成会で決めたこと、チーム内に気まずさは残らなかった。こうした厳しい現実もまた

「ホームコースで勝つ」というチーム内の結束を高める材料につながった。

このようにしてぶっちぎり優勝へ突き進んだパークレイCCの選手たちだが、では前記本間選手以外の選手たちはどんな気持で戦ったのか。

麻生英行選手（Aクラス）「大叩きしてしまいました。自分のコースだけに知人が多く、それがプレッシャーになった。そしてほかのチームの選手を見るとみんなうまそうな人ばかり。だが、戦い終わって自信がついた。決勝競技でも頑張るという気持になった。」

中島芳幸（Aクラス）「クラブとチームが一つになれた。こうした雰囲気がこれからのクラブ・ライフにもよい影響が出るのではないか。心地よい緊張は何度味わってもよい。」

新田軍太郎（Aクラス）「優勝はわれわれだけの力ではない。後押しする多くの会員とともに勝ち取った勝利だと思う。ステップ・アップした自信で来年も頑張りたい。」

藤田 健（Bクラス）「5年目の挑戦で優勝できたのが嬉しい。山田キャプテンのもとで一つにまとまったのが勝因。決勝競技ではみんながホテルで一緒だったし、チームワークはさらに強固になった。この勢いで来年も。」

歌川康弘（Bクラス）「来年も決勝競技に駒を進めたい。場数を踏めば踏むほど自信が生まれるし、チームワークも強くなる。予選ではチームとクラブが一丸となれた。選手間でも“来年はオレだ”的競争心も生まれた。」

山田キャプテンはじめ選手たちは口を揃えて、プレッシャーのもとでチームが一つになって勝ち取った優勝だと強調する。言葉で「突然の変身」といってしまうのは簡単だが、その裏には選手たちのプレッシャーに負けない精神力、堅い團結力のあったことを見逃すわけにはいかない。来年もまた、“大爆発”を期待したい。

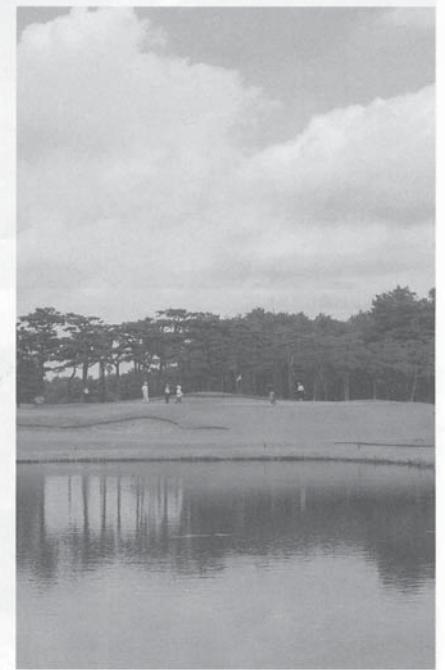


成功の蔭に裏方の努力

パーティで、福田彰理事長は「赤松の手入れの素晴らしさ、この大会の品格を高揚したものとして御礼申上げる」と挨拶したが、たしかに茨城ゴルフ俱楽部に着いて目を見張ったのが見事に手入れされた赤松群である。もちろん、それは赤松だけに限ったことではない。素晴らしい緑色をしたフェアウェイやグリーンもその一つだ。

芝の色は芝が健全かどうかをはかるパロメータだが、グリーンキーパーの滝島平八郎氏は「5日前のちょっとの間だったが、あの豪雨さえなければ」と雷をともなつた篠突く雨を恨む。

「グリーンの芝は、上を歩いていてフワーッと柔らかく足裏に感じるのはダメなんです。板の上



見事な赤松群

に乗って、その上を歩くような感触がいいんです。つまり芝の表面が固く、中が柔らかいのがよいグリーンというわけです。大会5日前のあの短時間だったが豪雨さえなければ、理想的なグリーンに仕上げられたんですが、残念ながら当日のグリーンは80パーセントの出来といったところでしょうか？」

と振り返るが、選手たちはこの日のグリーンの状態にかなり高い評価を与えている。ある選手は「梅雨どきのグリーンにしては最高。ナイス・ショットはよく止まるし、転がりもスムーズで申分ない」とベタ褒めである。

また大会を控えたコース管理には仕事のタイミ

ングも重要な要素になる。

「松の枝の剪定などもそうだが、早めに整備してしまうと、枝が伸びてしまって、松の美しさが半減してしまう」(古賀始同倶楽部理事長)といふこともあるし、グリーンやフェアウェイ、あるいはラフなども、大会に合わせるために仕事はほとんど大会の数日前に集中する。前記滝島グリーンキーパーは「前日仕事が終わったのが夜の10時、そして当日の朝3時には起きてコースに出かけている」というほどで、大会前は眠る時間も満足にとれなかった。

それともう一つ、選手たちや応援の人たちの目を引いたのがギャラリーテントだ。このテントは

2張りあって、選手や応援の人たちが仲よく交流し合う場所なのだが、ことしのテントはテント内に支柱がなく、雰囲気が非常に明るかった。

「東西に分けて1張りずつ設定したが、支柱がなくて広く使えるだけでなく、テント内の雰囲気も和気あいあいよかったです」

というのは選手や応援団の対応に苦心した倉持治支配人である。このほかクラブハウスと前のペランダを区切る戸を取り払って、食堂を一つの部屋にしてしまったのも倶楽部対抗用のアイディアだった。「48倶楽部にふえていますからね。ペランダの雰囲気を残しながら一つの部屋にしてしまったんです」と前支配人の瀬戸島四郎氏は、今年

最高の48チームに対応するために、こんな改良のあったことも明かしてくれた。

いずれにしても、48チームの選手団、関係者を呼ぶことは容易なことではない。永年、アジアのパンフィック・オープン・ゴルフ選手権競技キリン・オープン・ゴルフの開催コースとしてやってきているだけに大会準備には慣れているとはいえ、今回の大会のように48チームもの参加があり、36ホール全部を使用する競技は、キリン・オープンとはまた違った苦労があったはず。こうした大規模な大会を乗り切ったいま、関東倶楽部対抗競技が関東オープンの代わりとして立派に成長していくってくれるものと確信する。



全チームが出席して表彰式



滝島キーパー



ハウス前の大ギャラリーテント



テント内は応援団で満員



どの倶楽部も心のこもった御馳走 話しも弾む



倉持支配人



瀬戸島前支配人(左)

平成14年度 関東倶楽部対抗予選競技成績表

地域別 順位	新潟 フォレスト 13年9月18日(火)	長野 長野 5月24日(金)	山梨 オリムピック 5月20日(月)	群馬 ベルエア 5月24日(金)	栃木第1 パークレイ 5月21日(火)	栃木第2 都賀 5月24日(金)	茨城第1 大洗 5月20日(月)	
優勝	フォレスト 471	松本 469	甲府国際 478	藤岡 452	パークレイ 460	塙原 457	扶桑 482	
2位	湯田上 481	穂高 469	昇仙峡 486	伊香保国際 457	板木 475	佐野 477	大利根 488	
3位	日本海 481	長野 471	メイプルポイント 487	赤城国際 470	関東国際 479	唐沢 484	水戸 493	
4位	十日町 485	南長野 479	甲斐駒 494	草津 472	韋月・佐野 479	南摩城 486	大洗 495	
5位	妙高 486	塩嶺 481	ダイワインテージ 496	太田双葉 473	鹿沼 488	都賀 486	水戸グリーン 497	
6位	レイクビュー 487	信州駒ヶ根 485	富士川 499	上武 475	東宇都宮 489	ファイエト※ 488	ニッソー 497	
7位	松ヶ峯 487	諏訪湖 486	春日居 506	間越ハイランド 478	思い川東急 489	宇都宮 488	江戸崎 498	
8位	長岡 492	豊科 493	オリムピック 513	ベルエア 482	ユーハイ 490	矢板 488	セベーレステロス 500	
9位	紫雲 493	グラントー丸子 479	都留 521	鳳凰 485	鷹 492	足利 492	ザ・レイクス 501	
10位	笛神五頭 493	あづみ野 494	グリーンパレイ 524	甘楽 485	芳賀 493	那須小川 493	フレンドシップ 506	
11位	糸魚川 493	松本浅間 497	中央都留 537	妙義スプリングス 488	烏山城 493	皆川城 495	サニーフィールド 506	
12位	中条 495	千曲高原 497	秋山失格 489	下仁田 494	鬼怒川 495	霞ヶ浦出島 507		
13位	柏崎 497	望月 499	河口湖失格 490	東ノ宮 498	日光 497	常陽 510		
14位	イーストヒル 499	諏訪レイクヒル 500		グリーンパーク 491	紫塚 498	鹿沼 72	筑波学園 510	
15位	小千谷 500	長野国際 504		御荷鉢 492	ラインヒル 499	東松苑 501	セゴビア 511	
16位	新津 507	望月東急 505		群馬 494	那須チサン 502	チサン黒羽 501	玉造※ 519	
17位	妙高サンシャイン 510	信濃 508		桐生 494	鳳月 502	ゴールデン・レイクス 506	ダイヤグリーン 519	
18位	新潟sp・出雲崎 513	佐久平 509		高崎KG 497	杉ノ郷 503	鶴 512	霞台 523	
19位	越後 515	菅平高原 510		プリンスラン 498	広陵 506	千成 515	白帆 524	
20位	新発田城 515	サニ一 510		ツインレイクス 500	黒磯 507	大平台 515	浅見 528	
21位	アイビス 516	川中嶋 512		ロイヤルオーカー 505	新宇都宮 510	あさひヶ丘 515	穴戸 532	
22位	下田城 517	三井の森蓼科 515		下秋間 510	ルンピックナー 514	サンヒルズ 518	ザアスレチック 532	
23位	石地サイド 518	ヴィラ蓼科 525		美野原 512	韋月・鹿沼 514	アロエース 520	久慈川 540	
24位	新潟sp・三条 519	中央道晴ヶ峰※ 534		伊香保 494	永野 517	サンレイク 524		
25位	ヨネックス 524			板の木 537	藤和那須 535			
26位	新潟 524							
27位	津川 526							
28位	湯沢 544							
29位	ルーセント 549							
A クラスメダリスト	古沢一義 (レイクビュー) 75	柴謙治 (松本) 75	山田一彦 (昇仙峡) 76	大和田康夫 (草津) 加藤賢 (藤岡) 金子宗平 (伊香保国際) 73	斎藤裕一 (鹿沼) 遠藤斌 (南摩城) 藤本正美 (筑波学園) 72	安島大三 (水戸グリーン) 藤本正美 (筑波学園) 74	77	
B クラスメダリスト	高月将基 (フォレスト) 73	伊藤謙二 (松本) 72	冬頭克宣 (甲府国際) 虎見博明 (秋山) 75	関徹也 (赤城国際) 内田宏健 (関東国際) 70	金浩延 (塙原) 71	染谷健市 (扶桑) 65	74	

(注)※は初参加倶楽部

18ホール・ストロークプレー (参加324倶楽部・1,944名)									
茨城第2 阿見 5月23日(木)		埼玉 飯能グリーン 5月20日(月)		千葉第1 千葉国際 5月21日(火)		千葉第2 レインボーヒルズ 5月20日(月)		東京 立川国際 5月24日(金)	
スプリングフィルズ 465	岡部チサン 456	千葉葉 457	新千葉 467	立川国際 463	東名厚木 453	リバー富士 450			
富士・笠間 468	武藏 469	成田スプリングス 459	中山 480	青梅 465	秦野 462	富士チサン 457			
セントラル 472	高根 471	袖ヶ浦 460	総武 483	東京五日市 468	横浜 466	富士箱根 457			
龍ヶ崎 476	鴻巣 471	東千葉 461	木更津 489	八王子 470	大相模 468	富士宮 458			
金砂郷 481	小川※ 474	千葉国際 464	姉ヶ崎 491	府中 471	大厚木 468	大熱海国際 458			
土浦 482	浦和 475	千葉スプリングス 468	加茂 496	GMGハ王子 472	相模湖 469	豊岡国際 468			
茨城バシフィック 487	入間 478	房総 472	船橋 496	多摩 486	戸塚 470	沼津 473			
桜 487	東松山 481	一の宮 473	習志野 497	小金井 493	清川 472	富士小山 473			
ノースショア北浦 488	飯能グリーン 482	ザ・鹿野山 474	平川 498	桜ヶ丘 493	小田原湯本 475	三島スプリングス 473			
茨城ロイヤル 488	狭山 482	鶴舞 476	長太郎 498	武蔵野 497	大秦野 475	函南 480			
日立 489	埼玉国際 485	藤ヶ谷 478	千葉廣済堂 499	東京よみうり 498	磯子 478	富士御殿場 483			
栗橋国際 492	川越 485	千葉新日本 479	南千葉 502	東京国際 498	葉山国際 479	朝霧ジャンボリー 485			
麻生 498	熊谷 485	我孫子 480	レインボーヒルズ 506	相武 525	相模原 479	御殿場 488			
桂ヶ丘 502	日高 485	白鳳 481	富里 507	赤羽 541	津久井湖 480	東名 493			
取手国際 504	美里 486	鷹之台 482	京葉 507	伊勢原 480	富士 494				
筑波 508	霞ヶ関 486	真名 482	カレドニア 511	相模 481	天城にっかつ 494				
那珂 509	武藏松山 487	南総 485	かずさ 513	平塚富士見 481	伊豆スカイラン※ 498				
潮来 510	飯能 488	八幡 485	佐原スプリングス 514	小田原・松田 483	愛鷹 499				
新水戸 511	嵐山 489	四季 490	上総富士 516	レインボーエ 486	菊川 500				
高萩 511	寄居 492	鳳琳 494	東京C C 518	箱根 488	伊東C C 506				
ロックヒル 517	越生 493	茂原※ 498	成田C C 518	東京C C 489	相模野 490				
ザ・ウイングス 529	秩父国際 494	エンゼル 500	長南 520	中津川 490	中津川 490				
	鳩山 496	小御門 501	紫雲 524	湯河原 499	湯河原 499				
	東京京 498	源氏山 508	鶴川※ 528	美春 505	美春 505				
平井丈士 74	小川透 72	新村ヨシオ 70	上重修 74	久保田欽也 73	中島廣行 71	水野裕司 70			
藤崎和典 70	宮本清 70	片山正八 70	鈴木龍男 70	鈴木龍男 70	馬場雅之 68	植松真一 72			
伊藤謙二 72	浜島佳弘 70	和田雅英 71	和田雅英 70	和田雅英 70	勝又英文 68	勝又英文 72			
冬頭克宣 75	安島大三 77	高坂坂 70	高坂坂 70	高坂坂 70	松本寛美 68	松本寛美 72			
内田宏健 73	遠藤斌 74	廣済堂埼玉 70	廣済堂埼玉 70	廣済堂埼玉 70	和田雅英 68	和田雅英 72			
金浩延 71	藤本正美 74	トヨー 70	トヨー 70	トヨー 70	馬場雅之 68	馬場雅之 72			
染谷健市 65	藤本正美 74	オーケーヒルズ※ 531	オーケーヒルズ※ 531	オーケーヒルズ※ 531	和田雅英 68	和田雅英 72			
板の木 537	藤和那須 535	本千葉失格 505	本千葉失格 505	本千葉失格 505	和田雅英 68	和田雅英 72			

平成14年度 関東倶楽部対抗決勝競技成績表

6月24日(月) 於: 茨城ゴルフ倶楽部

1位 扶桑カントリー倶楽部 得点442

氏名	合計	アウト	イン	順位
石田 俊男	69	34	35	
寺田 清一	79	41	38	
野村 刚弘	77	36	41	442
染谷 健市	71	34	37	
斎藤 勝規	74	34	40	1位
日暮 康	73	34	38	

(チーム平均ストローク=73.67)

2位 斜ヶ浦カントリークラブ 得点448

氏名	合計	アウト	イン	順位
仲 松政美	73	36	37	
山 淳一	75	37	38	
林 安雄	82	40	42	448
布 斜ヶ浦	73	39	39	2位
藤 信吾	71	35	36	
田 俊男	69	34	35	

(チーム平均ストローク=74.67)

3位 東千葉カントリー倶楽部 得点449

氏名	合計	アウト	イン	順位
山 田 劲	66	32	34	
岡 照	75	38	37	
金 子 道	81	43	38	449
延 田 政弘	73	38	35	
三 橋好文	78	37	41	3位
室 野 駿	76	37	39	

(チーム平均ストローク=74.83)

4位 東名厚木カントリー倶楽部 得点451

氏名	合計	アウト	イン	順位
伊 達宗敏	76	36	40	
樺 本要	73	39	34	
中 申七郎	72	36	36	451
田 代猛	78	39	39	
永 田永	71	38	33	4位
露 木 実	81	41	40	

(チーム平均ストローク=75.17)

5位 リバーファイアカントリークラブ 得点452

氏名	合計	アウト	イン	順位
羽 切理光	72	34	37	
水 野裕司	70	33	37	
安 順 伸	74	34	40	452
達 光宣	81	41	40	5位
小 林一三	76	39	37	

(チーム平均ストローク=75.33)

6位 千葉カントリークラブ 得点454

氏名	合計	アウト	イン	順位
渡辺圭介	78	36	42	
村 田ヨシオ	73	37	36	
伊 東祐次	77	38	39	454
浜 田佳弘	79	37	42	6位
鈴 永俊	75	38	40	
男 男	72	36	36	

(チーム平均ストローク=75.67)

7位 スプリングフィルズゴルフクラブ 得点458

氏名	合計	アウト	イン	順位
阿 船茂人	77	41	36	
福 田一男	76	40	36	
寺 田義	73	37	36	458
川 島正廣	81	40	41	7位
新 谷 蘭	78	40	41	
大 山 和則	73	34	39	

(チーム平均ストローク=76.33)

8位 新千葉カントリー倶楽部 得点458

氏名	合計	アウト	イン	順位
川 岩謙扶	73	37	36	
土 士貞	77	39	38	
星 四郎	74	38	36	458
浅 井一夫	76	39	37	8位
桜 井 区久	76	37	39	
伊 藤和久	82	39	43	

(チーム平均ストローク=76.33)

9位 緑武カントリークラブ 得点459

氏名	合計	アウト	イン	順位
上 重修	73	38	35	
中 野貞宣	78	43	35	
望 桂次	80	40	40	459
杉 山 勉	72	37	35	9位
浮 田信	76	38	36	
中 川 利貞	80	39	41	

(チーム平均ストローク=76.50)

10位 岩岡チサンカントリークラブ 得点462

氏名	合計	アウト	イン	順位
見 稔修	78	41	43	
遠 小川	73	34	37	
透 佐藤	71	34	37	462
水 井	74	36	38	
笠 伸	78	40	40	

(チーム平均ストローク=77.00)

11位 藤岡ゴルフ倶楽部 得点464

氏名	合計	アウト	イン	順位
林 勝	78	39	39	
藤 修	81	37	44	
遠 小川	73	34	37	464
透 佐藤	71	34	37	
水 井	74	36	38	
笠 伸	78	39	39	

(チーム平均ストローク=77.00)

12位 富士チサンカントリークラブ 得点469

氏名	合計	アウト	イン	順位
久保 伸	79	41	40	
加藤 貴	76	39	37	
井 伸	75	35	37	469
井 伸	76	37	39	
井 伸	78	40	39	
井 伸	74	39	37	

(チーム平均ストローク=78.17)

13位 藤岡ゴルフ倶楽部 得点464

氏名	合計	アウト	イン	順位
森 伸	73	37	36	
山 伸	79	41	40	
川 伸	76	39	37	464
井 伸	78	40	39	
井 伸	75	37	36	
井 伸	77	39	37	

(チーム平均ストローク=77.33)

14位 成田スプリングスカントリー倶楽部 得点468

氏名	合計	アウト	イン	順位
渡辺圭介	78	36	42	
村 田ヨシオ	73	37	36	
伊 東祐次	77	38	39	454
浜 田佳弘	79	37	42	6位
鈴 永俊	75	36	37	
男 男	72	36	36	

(チーム平均ストローク=78.00)

15位 武藏カントリークラブ 得点468

氏名	合計	アウト	イン	順位
秋 谷泰	74	37	37	
村 平	78	38	40	
新 四郎	74	38	40	468
藤 伸	78	40	38	
山 本 信	73	36	41	
鈴 木 伸	80	39	41	
高 木 茂	73	36	41	
曾 田 伸	73	36	37	

(チーム平均ストローク=78.67)

16位 木更津ゴルフクラブ 得点468

氏名	合計	アウト	イン	順位
鈴 木 龍	79	38	41	
智 明	75	36	39	
高 木 安	81	42	39	468
安 田 博	76	40	40	
長 田 四郎	73	36	41	
内 田 明	78	39	39	
工 田 裕	77	36	41	16位
三 田 博	78	38	40	

(チーム平均ストローク=78.00)

17位 唐沢ゴルフ倶楽部 得点469

氏名	合計	アウト	イン	順位
上 重修	84	41	43	
中 野 豊	77	41	36	
望 桂次	77	40	38	469
杉 伸	78	40	38	
浮 田 信	76	37	35	17位
中 田 利	73	37	36	
高 木 利	77	40	38	
井 田 伸	78	41	37	
川 田 伸</td				

ゴルフ場

01

固定資産税軽減への道

税対策委員長 伊室 一義



バブルが崩壊してゴルフ場の売上高が激減し、どのゴルフ場も必死になって固定費の削減に取り組んでいる。人件費や物件費など削れるものはギリギリまで切り詰めているのに、バブル崩壊後に増えている大きな費目がある。それは固定資産税である。

これを課税する基準となる評価額の計算方法は「取得価額方式」「山林比準方式」「宅地比準方式」などがあるが、先ずゴルフ場の82%以上を占める「山林比準方式」について考えてみたい。

固定資産税の計算方法

具体例によって検証してみよう。Hゴルフ場の場合、登記地目の如何に拘わらず、現況地目が「ゴルフ場」となると、1m²当たり5,900円と評価



されている。参考までに申し上げれば、隣接した山林の評価額は1m²当たり23円であるから、実に256倍である。実際には評価額に52%を掛けて課税標準額とし、これに税率の1.4%を掛けて固定資産税が課税されているのである。

山林を開発してゴルフ場を造成する際、開発許可の条件として環境保護の見地から全体の50%の山林は保存するよう義務づけられているので、実際に使いもしない山林を沢山抱えている。その山林もゴルフ場と一緒に見なし評価額は付近の山林の256倍、課税標準額は134倍となって課税されている。

「これは少し変だな？」と思っている人は多いかも知れないが、大部分のゴルフ場では真面目かつ従順に納税している。仮に市町村の税務課に問い合わせに行っても、「本省の指導によって計算しておりますので私共では何ともなりません」と返事され、取り付く島もない。

固定資産税軽減の突破口

6月20日の埼玉新聞、22日付の朝日新聞に、「山林は別課税」という活字が踊っているのを見たゴルフ場関係者は、「え？ 本当？」と思ったことだろう。新聞をご覧にならない方のために、その概略を紹介すれば次の通りである。

①埼玉県のTゴルフ場は小鹿野町を相手取って、平成11年9月「山林は山林として課税して欲しい」と固定資産税賦課決定処分の一部取り消しを求める訴訟を起こした。

②小鹿野町は自治省（現総務省）の課税手引書で、「保存樹林も含めてゴルフ場と一緒に考え

るのが合理的」と示されているのを根拠に対抗した。

③経緯は明らかではないが、上記の課税手引書平成12年版では「コースなどゴルフ場用地と分筆した場合は、山林は山林として課税する」と方針転換された。

④一括課税の根拠は薄弱となり、さいたま地方裁判所は「山林は山林として課税」という和解案を呈示したので、小鹿野町は過去に遡らないことを条件として和解勧告を受け入れた。

⑤敷地の約4割は山林であるので山林だけの筆の課税は今年度から、未分筆の土地は今後測量・登記し、その手続終了の翌年度から課税額を変更することでTゴルフ場は合意した。

軽減運動の展開

埼玉県ゴルフ連盟の代表者は去る4月16日、有

力県会議員の応援を得て埼玉県知事を訪問し、文書を手交してゴルフ場の実情を説明、固定資産税の軽減に理解を求めた。これに対して知事はその趣旨を理解し、市町村課長を通じて各市町村に連絡しておく、と約束して下さった。これを受け各市町村毎に所在するゴルフ場の支配人が市町村長を訪問し、文書を渡して固定資産税の軽減を要請した。この要請運動を展開中に丁度上記の新聞記事が出たので、各市町村では対応に苦慮しているというが実情である。

Tゴルフ場の例に倣って、2,400に及ぶ全国のゴルフ場が一斉に訴訟を起こすのも一つの手段ではあるが、当局もゴルフ場側も冷静に話し合いによって問題を解決するのが国民経済的に有利ではないか、と私は考える。

(カット・山縣和彦)

※関係資料をご希望の方はKGA事務局までご連絡下さい

分科委員会

平成14年度
第2回コース・レート委員会議事録

日 時 平成14年6月21日（金）正午
場 所 ダイヤモンドホテル会議室
出席者 大原委員長
岡田副委員長
生田、大久保、荻島、佐久間、中川、平本、前川、森和田各委員、
渡邊顧問

①査定数値決定について

富士箱根カントリークラブ以下12俱
楽部のコース・レートを以下のよう
に決定した。

• 15年再査定倶楽部

富士箱根カントリークラブ
 「バック・ティ」「ベントグリーン」
 71.

「レギュラー・ティ」「ベントグリーン」
 69.

「フロント1・ティ」「ベントグリーン」
 65.

「バック・ティ」「コーライグリーン」
 70.

「レギュラー・ティ」「コーライグリーン」
 68.

「フロント1・ティ」「コーライグリーン」
 64.

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」	69. 6	龍ヶ崎カントリー倶楽部
「フロント1・ティ」「ペントグリーン」	68. 1	「バック・ティ」「ペントグリーン」
「バック・ティ」「コーライグリーン」	71. 7	73. 2
「レギュラー・ティ」「コーライグリーン」	70. 0	「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」
「フロント1・ティ」「コーライグリーン」	68. 6	71. 7
八王子カントリークラブ	71. 9	「フロント1・ティ」「ペントグリーン」
「バック・ティ」「Aグリーン」	69. 2	「バック・ティ」「コーライグリーン」
	71. 8	「レギュラー・ティ」「コーライグリーン」
「レギュラー・ティ」「Aグリーン」	70. 2	70. 4
「フロント1・ティ」「Aグリーン」	69. 0	「フロント1・ティ」「コーライグリーン」
「バック・ティ」「Bグリーン」	70. 8	東松山カントリークラブ
「レギュラー・ティ」「Bグリーン」	69. 4	東・中コース
「フロント1・ティ」「Bグリーン」	68. 2	「バック・ティ」「ペントグリーン」
箱根カントリー倶楽部	69. 2	72. 3
「バック・ティ」「ペントグリーン」	73. 0	「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」
「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」	70. 1	70. 3
「フロント1・ティ」「ペントグリーン」	68. 6	「フロント1・ティ」「コーライグリーン」
「フロント2・ティ」「コーライグリーン」	67. 6	68. 9
	68. 4	「バック・ティ」「コーライグリーン」
	67. 1	「レギュラー・ティ」「コーライグリーン」
	69. 2	「フロント1・ティ」「コーライグリーン」
	67. 9	中・西コース
	72. 1	「バック・ティ」「ペントグリーン」
	69. 7	「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」
	68. 4	「フロント1・ティ」「ペントグリーン」

分科委員会

「バック・ティ」「コーライグリーン」	●新規・改造査定倶楽部	「フロント2・ティ」「コーライグリーン」
70. 4	埼玉ロイヤルゴルフ倶楽部	67. 4
「レギュラー・ティ」「コーライグリーン」	おごせコース	②査定スケジュールについて
68. 5	「バック・ティ」「ペントグリーン」	ゴルフ倶楽部成田ハイツリー以下14
「フロント1・ティ」「コーライグリーン」	72. 0	倶楽部について、査定日を以下のよ
67. 1	「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」	うに決定した。
西・東コース	70. 2	●15年再査定
「バック・ティ」「ペントグリーン」	68. 4	ゴルフ倶楽部成田ハイツリー
71. 9	ヌーヴェルゴルフ倶楽部	8月2日（金）
「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」	「バック・ティ」「ペントグリーン」	グラウンドスラムカントリークラブ
69. 6	72. 1	8月5日（月）
「フロント1・ティ」「ペントグリーン」	「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」	入間カントリークラブ
68. 3	69. 4	8月30日（金）
「バック・ティ」「コーライグリーン」	「フロント1・ティ」「ペントグリーン」	真名カントリークラブ
70. 4	67. 3	10月21日（月）
「レギュラー・ティ」「コーライグリーン」	日高カントリークラブ	日高カントリークラブ
68. 4	10月30日（木）	10月30日（木）
「フロント1・ティ」「コーライグリーン」	●新規・改造査定	●新規・改造査定
67. 0	日光カントリー倶楽部	西茨城カントリークラブ
程ヶ谷カントリー倶楽部	「バック・ティ」「ペントグリーン」	8月8日（木）
「バック・ティ」「Aグリーン」	73. 0	新大宮ゴルフ倶楽部
72. 6	「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」	9月5日（木）
「レギュラー・ティ」「Aグリーン」	71. 2	久慈大洋ゴルフクラブ
70. 2	「フロント1・ティ」「ペントグリーン」	9月17日（火）
「フロント1・ティ」「Aグリーン」	69. 4	グラシアセルゴルフクラブ
68. 9	「フロント2・ティ」「コーライグリーン」	10月2日（水）
「バック・ティ」「Bグリーン」	68. 3	ノーザンカントリークラブ錦ヶ原ゴルフ場
71. 8	成田フェアフィールドゴルフコース	10月4日（金）
「レギュラー・ティ」「Bグリーン」	「バック・ティ」「ペントグリーン」	霞ヶ関カントリー倶楽部・西コース
69. 7	71. 5	11月19日（火）
「フロント1・ティ」「Bグリーン」	「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」	ブリックアンドウッド
68. 4	70. 0	11月22日（金）
「フロント1・ティ」「ペントグリーン」	「フロント1・ティ」「ペントグリーン」	前橋ゴルフ場
	68. 6	次回委員会にて決定

分科委員会

ツインレイクスカントリー倶楽部
岡田副委員長一任

③JGAハンディキャップ委員会報告事項について

大原委員長より、女子のコース・レート査定実施について、JGAハンディキャップ委員会にて、女子ハンディキャップ推進委員会が設置され、平成15年1月実施に向け検討を重ねており、また、KGAハンディキャップ委員会においても女子ハンディキャップ委員が、コース・レート査定に同行し、あるいは独自に研修を行い、準備を進めている旨の報告がなされた。

平成14年度 第3回 月例競技委員会議事録

日 時 平成14年4月19日（金）

場 所 KGA会議室

出席者 松本委員長
中野副委員長
牛込、加藤、桜井、嶋田、松井各委員
学生連盟委員

— 討議及び決議事項 —

①4月度月例競技報告および総括

中野副委員長より、下記の報告及び総括がなされた。
「前日、委員長以下委員がプレーをした時、ホールロケーションが難しかったので、今回出場者が多数

為、当日のホールロケーション等をやさしく設定したところ、コースコンディションが非常に良く、良いスコアが出た。」

エントリー数は以下のとおり

開催日 平成14年4月16日（火）
コース 日光カンツリー倶楽部
エントリー 172名
(男子144名、女子28名)

欠席者数 事前連絡11名

(男子11名)
当日連絡1名(男子1名)
無断欠席1名(男子1名)

出場者数 159名

(男子131名、女子28名)
科罰者 0名
ミーティング出席 0名

失格者 0名

棄権者 0名

次回プレーオフ なし

②6月度月例競技について

6月度月例競技は霞ヶ関カンツリー倶楽部東コースを使用し、コースセッティングは山崎副委員長に一任することを確認した。

名、女子44名以内を原則とする。

②制限方法

上記人数を超えた申込があった場合には

イ) 本競技開催目的を考慮して初参加者を優先する
ロ) すでに複数回出場している者の参加については

1. ポイント上位者を優先する
2. 過去11回の競技の実績で出場回数の多い者を優先する
3. 上記以外の対象者が生じた場合は受付先着順とする。

※本規定の実施は平成14年6月度よりとする。

②無断欠席者について

月例競技参加規程に従い、次回以降7回の出場停止および所属倶楽部理事長宛に警告書を送ることになった。

平成14年度 第4回 月例競技委員会議事録

日 時 平成14年6月5日（水）

場 所 KGA会議室

出席者 松本委員長
山崎副委員長
岡野、小坂、桜井、嶋田、平山、松井各委員
学生連盟委員

③その他

①参加入数の制限方法について

次のとおりとすることを確認した。

- (1) 参加入数
イ) 4月度～9月度は、男子110名、女子50名以内を原則とする。
ロ) 10月度～3月度は、男子100名、女子44名以内を原則とする。

分科委員会

は松本委員長および中野副委員長に一任することを確認した。

①6月度月例競技報告および総括

山崎副委員長より、下記の報告及び総括がなされた。

③その他

①無断欠席者について、月例競技参加規程に従い、次回以降7回の出場停止および所属倶楽部理事長宛に警告書を送ることとした。

平成14年度 第5回 月例競技委員会議事録

日 時 平成14年7月4日（木）正午

場 所 KGA会議室

出席者 松本委員長
山崎、阪田両副委員長
加藤、桜井、嶋田、平山、松井各委員
(男子80名 女子42名)
学生連盟委員

— 討議及び決議事項 —

①7月度月例競技報告および総括

山崎副委員長より、下記の報告及び総括がなされた。

出場者数 事前連絡5名

(男子2名 女子3名)

当日連絡0名

無断欠席3名(男子3名)

出場者数 114名

(男子75名 女子39名)

科罰者 0名

ミーティング無断欠席 1名

失格者 0名

棄権者 0名

次回プレーオフ なし

②7月度月例競技について

7月度月例競技は相模カンツリー倶楽部を使用し、コースセッティング

レベルをめざして頑張ってほしいとの話があった。」

エントリー数は以下のとおり

開催日 平成14年7月1日（月）
コース 相模カンツリー倶楽部
エントリー 172名

(男子120名 女子52名)
欠席者数 事前連絡7名

(男子6名 女子1名)
当日連絡4名(男子4名)
無断欠席1名(男子1名)

出場者数 160名

(男子109名 女子51名)

科罰者 0名

ミーティング無断欠席 0名

失格者 2名(男子2名)

棄権者 0名

次回プレーオフ なし

②8月度月例競技について

8月度月例競技は程ヶ谷カントリー倶楽部にて開催されるが、コースセッティングは中野副委員長に一任することを確認した。

③その他

①無断欠席者について、月例競技参加規程に従い、次回以降7回の出場停止および所属倶楽部理事長宛に警告書を送ることを確認した。

②平成15年度競技日程について
平成15年度競技日程について、候補倶楽部、日程、交渉担当委員を決定した。

月例競技成績表

〔平成14年度6月月例〕 平成14年5月31日(金) 露ヶ関カントリー倶楽部東コース

順位	スコア	氏名	倶楽部名
1	68	鶴賀 辰徳	ロイヤルスター
2	70	杉山 稔	総 武
3	71	室野 歩	東 千葉
3	71	金子 光規	レインボー
5	72	阪田 哲男	袖ヶ浦
5	72	中川 雅義	沼 津
5	72	和田 雅英	東京五日市

順位	スコア	氏名	倶楽部名
1	75	江澤三智子	習志野
2	77	小坂順子	千葉
3	78	長瀬万寿	東京

〔平成14年度7月月例〕 平成14年7月1日(月) 相模カントリー倶楽部

順位	スコア	氏名	倶楽部名
1	70	白井 敏夫	総 武
2	71	吹野 耕一	都 賀
3	73	宮本 清	小 川
3	73	千野 英樹	中 山
3	73	山内 帝法	下 野
3	73	角田 充弘	富 里
3	73	金子 光規	レインボー

順位	スコア	氏名	倶楽部名
1	75	渡辺 恵子	高 根
2	82	浅川 弘子	矢 板
3	83	原田 町子	習志野

お知らせ

関東ゴルフ連盟「加盟倶楽部便覧」の変更事項は次記のとおりです。訂正加筆をお願い申し上げます。

理事長

■立科芙蓉カントリー倶楽部

(新) 荒田 俊雄 (旧) 松尾泰一郎

■都賀カントリー倶楽部

(新) 滝沢 武

■浅見カントリー倶楽部

(新) 百瀬 透 (旧) 外岡 佐近

■水戸グリーンカントリークラブ

(新) 野内 宏一

(旧) 海老原亀久寿 (名譽理事長)

■越生ゴルフクラブ

(新) 錦織 正 (旧) 加藤千寿夫

■飯能ゴルフクラブ

(新) 深澤 守 (旧) 渡辺長四郎

■東松山カントリークラブ

(新) 山本 知男 (旧) 伊室 一義

■佐倉カントリー倶楽部

(新) 堀 秀次 (旧) 細川 春雄

■相武カントリー倶楽部

(新) 小野光太郎 (旧) 中村 一郎

■東京五日市カントリー倶楽部

(新) 下福葉耕吉 (旧) 大石 巍

■秦野カントリークラブ

(新) 野尻禮次郎 (旧) 氷見 誠一

■思い川東急ゴルフ倶楽部

(新) 落合 和雄 (旧) 川田 昭

倶楽部代表者

■千成ゴルフクラブ

(新) 清水 荣吉 (旧) 中沢 勤

■浅見カントリー倶楽部

会社名

■水戸グリーンカントリークラブ

(新) 海老原寿人

(旧) 海老原亀久寿、野内 宏一

(II) 海老原亀久寿

■越生ゴルフクラブ

(新) 錦織 正 (旧) 加藤千寿夫

■飯能ゴルフクラブ

(新) 深澤 守 (旧) 渡辺長四郎

(新) 竹井 哲也 (旧) 佐志田虎雄

(II) 竹井 哲也

■佐倉カントリー倶楽部

(新) 堀 秀次 (旧) 細川 春雄

■相武カントリー倶楽部

(新) 小野光太郎 (旧) 中村 一郎

■東京五日市カントリー倶楽部

(新) 下福葉耕吉 (旧) 大石 巍

■秦野カントリークラブ

(新) 野尻禮次郎 (旧) 氷見 誠一

(新) 中西 茂 (旧) 岩澤 栄

(II) 中西 茂

■思い川東急ゴルフ倶楽部

(新) 落合 和雄、阿部 博国

(旧) 川田 昭

(II) 岩澤 栄

支配人

■長瀬カントリークラブ

(新) 木澤 豪 (旧) 吉川 義隆

■秦野カントリークラブ

(新) 中西 茂 (總支配人)

(II) 岩澤 栄

(II) 岩澤 栄

■白帆カントリークラブ

(新) 桜井 忠久 (旧) 行川 四郎

(II) 岩澤 栄

(II) 岩澤 栄